

■ 商品使用時CO₂削減貢献量

算定対象範囲

商品使用時（スコープ3カテゴリ11（販売した製品の使用））を算定対象範囲としています。
TOTOの多くの商品は使用期間が約10年～20年と長く、ライフサイクルで見ると、商品使用時に排出されるCO₂の量が全体の9割以上を占めるため、商品使用時以外のCO₂排出量の影響は除外できると判断しました。

■ 商品ライフサイクルから見たCO₂排出量の割合

2005年（基準年度）から現在に至るまで、商品使用時の割合が9割以上を占めています。



算定方法

主要商品^{*1}1台あたりの使用期間^{*2}におけるCO₂排出量^{*3}×販売台数 について、
2005年当時の商品を普及し続けた場合と比べた削減効果。

- *1 大便器・ウォシュレット・水栓金具・小便器・浴槽。（小便器と浴槽は日本のみ）
- *2 当社が定める商品分類毎の使用期間。（約10年～20年にて設定）
- *3 主要商品を販売した地域における、商品性能と使用状況モデルに基づく商品使用時のCO₂排出量。
（省庁の調査報告書や論文等に基づき設定）

【電力のCO₂排出係数（日本）】

電気事業連合会「電気事業における環境行動計画」に示されているCO₂排出係数（調整後）の実績平均値。

【電力のCO₂排出係数（海外）】

IEA（International Energy Agency）, “CO₂ Emissions from Fuel Combustion 2017”。

【水のCO₂排出係数（日本）】

日本レストルーム工業会「水のCO₂換算係数」。

【水のCO₂排出係数（海外）】

環境省・経済産業省の調査報告書等に記載の中国・アジア諸国などにおける水のCO₂排出係数を使用。
販売した地域毎に0.39kg-CO₂/m³～1.11kg-CO₂/m³にて設定（一部は近隣・類似国の値を使用）。

【ガスのCO₂排出係数】

環境省・経済産業省「温室効果ガス排出量算定・報告マニュアル（Ver.4.3.1）」の値を使用。

■ 商品使用時水削減貢献量

算定方法

主要商品^{*1}1台あたりの使用期間^{*2}における水消費量^{*3}×販売台数 について、
2005年当時の商品を普及し続けた場合と比べた削減効果。

- *1 大便器・水栓金具・小便器・浴槽。（小便器と浴槽は日本のみ）
- *2 当社が定める商品分類毎の使用期間。（約10年～20年にて設定）
- *3 主要商品を販売した地域における、商品性能と使用状況モデルに基づく商品使用時の水消費量。
（省庁の調査報告書や論文等に基づき設定）